

自分を大切に育てる情報環境を 創りましょう

渡邊 嘉子

私たちは、朝の目覚まし時計、鳥のさえずり、テレビニュースなどに始まり、電車の中刷り、スマホの情報、街でみかけるポスター、新聞や雑誌の広告など、日々いろんな情報を取り込んで生活しています。人は目・耳・鼻・舌・皮膚等の五感をセンサーとしてまるで空気のように、「意識する・しない」にかかわらず情報を吸収しています。

高度情報化社会に生きる私たちは、学校・会社・結婚式場・住宅・病院・介護施設選びなど、人生の大切な場面で情報を活用しています。音楽や絵画など感動を与える芸術も情報です。地球環境保全・世界平和推進・政治も情報によって動いています。しかも、この「情報」は、脳に知識やヒントを与え、判断や行動、ひいては「価値観」・「人生観」・「社会通念」に大きく影響します。「情報」と情報を多くの人に伝える「メディア(媒体)」は、私たちの人生に大きな影響を与えているだけに「情報環境をどう創るか」が、自分を成長させる重要なポイントとなっています。女性活躍を推進する時代に入ったものの、過去、多くの女性は男性に比べて幅広い活躍の経験を与えられなかったため、重責を担える力をもつ人がまだまだ少ないのが現状です。日本の女性向けメディアは、世代別に分けられ、ファッション・化粧品・料理・芸能界などへの関心を育てるものが多く、女性が消費者として期待されてはいても、リーダーとして期待されていると感じられるメディアは、ほとんど見当りません。そのことを残念に思い、私は女性活躍を応援する女性誌を発刊し、幅広い女性の声を共有する機会を創りました。

メディアが多様化し、情報が溢れる中で、女性はバランスのとれた視野を拡大する情報環境を創り、なりたい自分に導いていく「自分育成のプロ」になっていきましょう。「情報の吸収・整理・活用」とともに「情報の発信者」としての体験を増やし、自分の意見やアイデアをダイナミックに「実現する人」になっていたくことを願っています。



PROFILE

わたなべよしこ：社会情報大学院大学客員教授、ヒューマン・コミュニケーション研究所所長、女性活躍応援誌『季刊オピニオン・プラス』発行・編集人、(公財)日本女性学習財団評議員。ナショナル宣伝研究所を経てリクルートホールディングス(現)に入社(女性定年退職者第一号)、『週刊住宅情報』、『リクルートブック』の編集長、企業情報研究誌『HUMAN・AD』編集長・エグゼクティブプランナー、共立女子大学講師を経て現職。